2003年９月29日
八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 571-2299
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp

さわやか

第８０号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

通院介護センター「さわやか」特定非営利活動法人認可さる！

通院介護センター「さわやか」は四月二七日、特定非営利活動法人設立のための総会を開催しました。総会の決定に基いて、福岡県生活文化課に法人設立の届けを提出しました。福岡県生活文化課は、五月六日に「さわやか」の設立届を受付け、その後二ヶ月間の公示期間を経て、公示期間中の意見も含め審査がありました。認証まで四ヶ月かかるとみられていましたが、八月二九日に認可の通知が県庁より江頭会長にあり、九月四日に認証を受けてまいりました。認証書を受取り、九月十日に登記を完了し法人として成立しました。

全国的にボランティア活動が高まる中で、ボランティアによる移送サービスも世間の注目を集めるようになりました。また、介護保険のからみもあり、介護タクシーの制度が再三にわたり変更されています。まさに、移送サービスが大きな社会問題になりつつあります。そのような情勢の中で、「ボランティアによる移送サービスは、個人の資格では認められませんよ、法人の資格を取って下さい。」との国土交通省の指導がありました。

阪神淡路大震災以来、ボランティア活動が注目を集め、その活動が高く評価されるようになりました。ボランティア活動を個人のものだけにするのは、国家の損失ではないかとの議論になり、ボランティア活動を法人化する機運が高まり、特定非営利活動法人促進法が生まれました。一方では、福祉関係の事業も、個人の力に支えられるのではなく、社会的に支援すべきとの意見が多くなり、法人化が言われるようになりました。今までは行政の責任で福祉関係の事業は行なわれてきていましたが、今後は、国民が自らの力で、行政とタイアップしながら歩く、そのためには、個人でなく法人を設立して、社会的な存在を明らかにした活動が必要ということで、特定非営利活動法人促進法が設立されました。「さわやか」は、その全国的な流れに応じ法人を設立しました。

通院送迎の事業は、今まで通りですが、社会的責任は大きくなります。ボランティアの皆様の更なるご支援ご協力よろしくお願いします。

ふれあい佐賀 祝 創立五周年

９月20日(土)15時から、原鶴温泉「清香荘」で記念大会が開催されました。「さわやか」から、江頭会長、山田副会長が御招待いただき参加しました。

「ふれあい佐賀」富崎会長

大会は、佐賀協早田会長「ふれあい佐賀」富崎会長の挨拶から始まり、いずれも、設立当初の産みの苦しみ、また、送迎することの意義、やりがいなどについて話されました。佐賀県から十四名の方々が出席されました。

引き続き、江頭会長による、講話が、質疑応答まで入れて、90分ほどありました。江頭会長は、まず、「ふれあい佐賀」の設立される当時の状況を語りました。対県交渉の中で当局の対応をみて、「これは、いける」と思ったら、数日後に、助成金が出ることになったと、感動的にしゃべりました。つづいて、ボランティアとは?ということで、ボランティアについて、話しました。ボランティアとは、自主的、自覚的にするもので、語源をたどれば、「義勇兵」という意味だと述べました。日本語の「奉仕」とは意味がちがうので、奉仕とボランティアを混同しないよう注意をうながしました。ＮＰＯ法人の問題にもふれ、現代の政治情勢、福祉の実態、その他、種種の情勢を見るときに、ＮＰＯ法人化は歴史の流れです、と強調しました。行政に全てを任せる時代はすでに過ぎた。今からは、国民と行政が手をとりあって、国民ができることは、国民がするという態度がなければ、運動は前進しないとも、述べました。

大会が終わり、18時から、祝賀会に入りました。祝賀会では、ビンゴゲームやじゃんけんゲームなどを楽しみました。20時からは、「鵜飼い」見物をしました。鵜を目の当たりに見ることができ、素晴らしい経験をすることができました。あとは、温泉と露天風呂に入りその後、部屋ごとに交流を深め就寝しました。翌朝は、江頭、山田両名は福賢協幹事会出席のため、朝早く原鶴を出ました。

エピソード in SAGA

■「挨拶を」と聞いて出席した江頭会長。会場で突然「それでは江頭会長に講演をしていただきます」と司会者。事前の打合せでは、祝賀の挨拶だけ、と聞いていた江頭会長は、びっくり！抜打ちでするのが佐賀方式とか。いや、参りました。

■ふれあい佐賀のご招待で、夜8時から鵜飼見物。山田副会長、鵜飼の写真を撮っていたが、鵜の側の照明が強く、写真が逆光で写りませんでした。そこで一言「こりゃ新聞記事にならん」と。鵜飼見物の時まで、新聞記事のことを考えているとは？

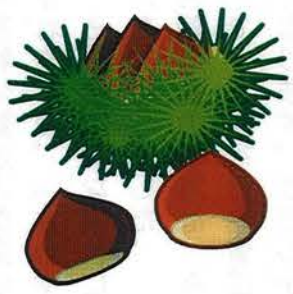
■記念行事に、自らが透析患者でボランティアをしている、フィリピン出身の若いかわいい方が参加されていました。江頭会長が、「僕の故郷は長崎県の田平町よ。僕が田平に帰ったら、送迎してね」といったら間髪をいれず、「いや！遠すぎる」と。良く聞いてみると、彼女の旦那さんが、田平町で仕事をしていて、毎朝四時半に起きないといけないので、苦労しているとのこと。なるほど。納得。

■旅館で富崎会長と江頭会長が雑談していました。「小城中の校長先生は、僕の大学の先輩だが」と江頭会長。富崎会長、「ああ、○○先生なら知っとるよ」と早速○○先生に電話をしてくれました。お陰で、江頭会長は四十年ぶりに、先輩の声を聞くことができ感激していました。奇遇なことがあるもんだ。

■祝賀会のゲームで、原鶴温泉のペアー宿泊券のじゃんけんゲームがあり、江頭会長が決勝まで残りましたが、決勝で敗退、残念！

■「原鶴温泉にかげろう異常発生」と、テレビのニュースで見た山田副会長。都会育ちでもないのに、大の虫嫌い。当日は風もあり好天に恵まれ、虫はほとんどいませんでした。ところが、帰ってから旅館のロビーで、かげろうが一匹、山田副会長の袖口に留まりました。とたんに、絶叫！「虫！助けてー！」と。

「山田副会長を殺すには刃物はいらん。虫の一匹いればいい」弱点を見つけたゾッ！



■小倉事業所の梶原、寄友両氏が送った祝電はミッキーマウスのぬいぐるみに入っていたそうで、佐賀協の早田会長は毎晩そのぬいぐるみを抱いて寝ているそうです。

寄稿

ハートある活動に感謝

難病連　木村喜三恵

「こんにちは、お変わりないですか。今週の通院日のお電話がないままでしたが、いかがしましたか」と小倉事業所の方からと送迎ボランティアの両方から気くばりの行き届いたお知らせのお電話をしていただき、感謝の言葉も言いつくせない気持ちでいっぱいです。先月までは月に二度の通院だったのが、月に一度になってちょうど二週目にお電話をいただきました。

それから乗り降りや腰の位置と色々と心くばりはもちろん家の愚痴の聞き役のみならず、心安らぐアドバイスに頭が下がります。「さわやか」のモットーである、〝ハートある活動〟といわれているとおり、今後の全国へ発展する期待と、日頃の感謝の気持ちでお礼を申し上げます。

私とボランティア

八幡事業所　田村典男

昭和40年代現在の世相と異なり景気上昇の時代企業はレクレーション指導養成を積極的に導入していた。当時会社より派遣されレクレーション講座の中級まで勉強させてもらった。そしてレクレーションリーダーとして活動、それから子供の成長とともに子供会、学校、町内会、公民館、スポーツ少年団等のレクレーション企画・実行、それとある団体の祭の実態調査と、レク活動の分野でボランティア活動に専念した。

遊ぶことが大好きな私だから、近年まで活動していたが、病人としては自覚不足で透析が始まった。こういう体ではあるけれど「さわやか」に登録した。同病の憐れみの精神ではなく、テストケースとして体が許す簡単なことから始めた。ボランティアは、レク活動が私の性に合っていると思うことから、病棟やベッドで楽しめるレク活動を始めたい。また学生時代いつの日かやってみたいと図書司書の資格を取ったが、青春時代のあの時の思いの形を変えて病院内に図書室を作ってみたい。いつの日か実現できればいいなと思っている。